

■ 建築都市デザイン専攻

人材の養成及び教育研究上の目的・専攻のポリシー
指導教員別研究内容・履修モデル
「建築学領域・都市工学領域」

■ 建築都市デザイン専攻

人材の養成及び教育研究上の目的、専攻のポリシー、指導教員別研究内容、履修モデル(博士前期課程)

専攻主任教授 白旗 弘実

1. 人材の養成及び教育研究上の目的

□博士前期課程

建築都市デザイン専攻に係わる分野は理工学だけではなく社会学、経済学、歴史学など多岐にわたるため、広範かつ多面的な視野を持ち、広く社会に貢献できる人材の養成を目的とする。修了後の就職業種は、公務員、ゼネコン、設計事務所、大学など多岐に渡る。こうした広範な業種における高い専門性を有し、地球的視野を持った技術者の育成を目的とする。

□博士後期課程

高度な専門知識と技術を有し、さらに高い倫理観および責任感を兼ね備えることにより、建築都市デザイン専攻に係わる分野にて活躍できる人材の養成を目的とする。さらに、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓でき、国際的にリーダーシップを発揮できる人材を養成することを目的とする。

2. 専攻のポリシー

ディプロマポリシー 学位授与の方針

□博士前期課程

所定の年限在学し、以下の知識・能力と所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は特定課題研究の成果の審査及び最終試験に合格した者に、修士（工学）の学位を授与する。

1. 国際社会での活躍に必要なコミュニケーション能力、情報活用能力、建築学及び都市工学に留まらない幅広い知識及び多面的かつ複合的な視点を身に付けている。
2. 建築学及び都市工学分野における高度な専門知識・技術と、それを活用して課題を解決する応用力を身に付けている。
3. 高い倫理観を備えて科学技術社会に幅広く貢献するため、建築学及び都市工学分野における特定の問題に対して、適切な課題設定を行い、高度な専門知識を駆使して問題解決に取り組むことができる実践的な研究能力を身に付けている。

□博士後期課程

所定の年限在学し、以下の知識・能力と所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（工学）の学位を授与する。

1. 建築学及び都市工学分野における多様な事象及び学術研究の成果を総合的に理解することで、実践的な問題解決に資する専門知識及び学際的・国際的視野に立って知の発展に貢献する能力を身に付けるとともに、高い倫理観を備えている。
2. 研究倫理を遵守し、建築学及び都市工学分野における高度な研究を行い、最先端の知識・技術と結びつけて体系的に整理することで、科学技術社会が発展するための課題解決に向けた新たな価値を創造する研究能力を身に付けている。

カリキュラムポリシー 教育課程の編成方針

□博士前期課程

学位授与の方針に掲げる人材を養成するため、以下のように教育課程を体系的に編成し、実施する。科目の特性に応じて授業の形態・学びの方法を適切に組み合わせ、自ら学び探究し行動するための教育を実践する。

1. 情報活用能力と建築学及び都市工学に留まらない幅広い教養を持ち、国際社会で活躍できる人材を育成するため、総合教養科目群及び総合基礎科目群を編成し、講義、演習、実験、実習等を適切に組み合わせ、能動的学修を取り入れる。
2. 研究能力の養成に資する専門基礎科目群を編成するとともに、建築学及び都市工学分野の高度な専門知識の修得に資する専門科目群を編成し、講義、演習、実験等を適切に組み合わせ、グループワーク、プレゼンテーションなどを盛り込む。また、専門知識を応用する課題解決型の実習科目も配当する。
3. 科学技術社会への貢献を念頭に、建築学及び都市工学分野における特定の課題を深く追求し、高度な研究能力を修得させるため、研究指導教員による研究指導を主とした「特別研究」を配当する。

□博士後期課程

学位授与の方針に掲げる人材を養成するため、以下のように教育課程を体系的に編成し、実施する。

1. 建築学及び都市工学に関する高度な学術研究を遂行する研究者として備えるべき見識と素養を身に付けさせるため、学際的・国際的な教養、先端的な研究方法、研究成果を体系化する能力などを獲得させ、併せて研究倫理を徹底するとともに、教育者としての役割及び科学技術社会における学識経験者の役割を適切に果たすための素養を培うため、演習や講義等を組み合わせた能動的学修が主体の「講究」を配当する。
2. 建築学及び都市工学分野における特定の研究主題を設定し、これを深く追求して学位論文に取りまとめさせるため、研究指導教員による研究指導を主とした「特殊研究」を配当する。

アドミッションポリシー 入学者受入れの方針

□博士前期課程

本専攻が掲げる「人材の養成及び教育研究上の目的」に共感し、建築学及び都市工学に関する高い専門性、語学力、情報利活用能力、高い倫理観及び国際性を兼ね備え、課題発見力と解決力を活かして社会変化に迅速に対応することで、科学技術社会に幅広く貢献できる人材となることに対する強い意欲とチャレンジ精神を持ち、以下のような能力を持つ人を求めます。

1. 建築学及び都市工学分野における基盤的な知識と技術力
2. 多様な人々との協働に必要なコミュニケーション能力
3. 柔軟な発想力と論理的思考力
4. 建築学及び都市工学分野の研究に必要な語学力と倫理観

□博士後期課程

本専攻が掲げる「人材の養成及び教育研究上の目的」に共感し、学際的視野を持って自立した研究活動を行うのに必要な建築学及び都市工学に関する学識、研究能力、倫理観及び国際性を高度に備え、先端的な知識と技術を駆使して、科学技術社会の発展に応えるための課題を設定し、その課題を着実に解決できるとともに、新しい領域を開拓できる人材となることに対する強い意欲とチャレンジ精神を持ち、以下のような能力を持つ人を求めます。

1. 建築学及び都市工学分野における高度かつ幅広い知識と技術力
2. 国内外の研究者との協働に必要なコミュニケーション能力と語学力
3. 柔軟で学際的な発想力とあくなき探究心
4. 建築学及び都市工学分野の研究に必要な健全な倫理観

3. 領域について

本専攻は建築学領域と都市工学領域からなる。

建築学領域では、建築物及び建築物で構成される地域を扱い、建築計画・建築史、建築設計、建築構造、建築生産・材料、建築環境設備などの分野からなる。

都市工学領域では建築物以外を広く扱い、都市の計画・マネジメント、構造物（交通施設、エネルギー施設、等）の設計、防災、環境（地盤、河川、海）などの分野からなる。

4. 指導教員別研究内容

【建築都市デザイン専攻 建築学領域】

■福島 加津也

研究内容は、最先端の建築デザインとその根底にある建築理論の2つである。本研究室の指導教員は、現役の建築家でもある。現役の建築家が大学で教えることにより、この2つを同時に研究することができるようになる。これまでの大学の枠にとどまらない実践的な活動から、新しい建築教育の可能性が広がるだろう。建築は永く未来に残る。その建築を設計することは、未来を考えることに他ならない。本研究室が目指す未来とは、建築をデザインすることによって、理想の未来とは何かをみんなで考える社会をつくることである。

■岩下 剛

住宅・学校・オフィス・商用施設の居住環境、環境設備システムを対象に、快適性、安全性、健康性、作業性（パフォーマンス）に配慮した計画・管理・制御をテーマとして研究を実施している。建築計画原論、建築保健工学、環境設備システム学の学問体系を基に、室内空気環境をはじめ、社会で現在問題となっている事象をテーマとして選んでいる。学習成果が現場である居住環境の改善・リスクの低減に役立つような対策技術も学修する。

■大村 哲矢

日本は地震大国であり、建物は大地震に耐えるように設計するものと法律で定められている。しかし、その法律が定められた以前の古い建物はその性能を有していないことが多い。また、近年の建物は、倒壊しないように設計されているが、地震後に建物を継続して使用できるとは限らない。このような背景から、古い建物については耐震補強をどのように実施していくべきか、新たに設計する建物については地震に対してどのような性能を設定して設計していくべきかに関して実験および解析によるシミュレーションを実施して研究を行う。

■落合 陽

木造建築・木質材料は環境問題の解決のため近年大きな注目を浴びており、それに応じて従来の住宅規模からオフィス・学校施設などへの大規模化が急速に進んでいる。しかし、木造建築の大規模化に向けた技術発展には未だ課題も多い。特に、CLTなどに代表される新素材、耐力壁・ラーメンなどの耐震架構、組み立て梁・トラス梁などの大スパン架構の高強度・高靱性化に向けた研究は喫緊のテーマである。これらのテーマに対して、調査・実験・解析のアプローチで解決を目指し、木造建築への理解を深める。

■小見 康夫

建築生産とは、建築をつくる仕組みを指す。狭義には、施工現場で展開される様々な構工法であるが、その背後には、それらを担う企業や組織による活動、さらには様々な技術や制度の体系が存在する。わが国では建築は既に量的飽和に達しているが、老朽化や性能の陳腐化が進行しており、これらのストックを持続可能な方法で健全化していくことが強く求められている。こうした「ストック健全化」に向け、建築の様々な知見を総動員し、技術的な内容はもちろん、それをとりまく社会や制度まで含めた「課題発見と解決」のための研究を行っていく。

■小林 茂雄

地域の特性を活かした屋外照明計画を行い、その効果を検証している。フィールド調査と現場実験を行いながら、安全・省エネルギーで、固有性のある光環境を構築していく。照度や輝度の数値計算によって画一的な照明計画を行うものでも、デザイン的に優れた光環境のみを構築するのではなく、各々の現場において求められる空間性能を最大化させることを目的としている。従来の1/3程度のエネルギーで実現することを目指している。

■齋賀 英二郎

かつて歴史的建造物は、主に寺社建築を中心に、次々と姿を消していく保護されるべき存在として取り扱われ、特別な技能者による厳密な保存が目指され実施されてきた。しかし、現代の歴史的建造物は伝統木造建築にかぎらず、産業遺産や戦後建築を含むまで種類と量ともに拡張した。博物館的な保存手法だけではなく、保存と活用の両立や、再利用を前提とした発想が求められている。本研究室では、建築および地域のフィールドワーク／リサーチとデザイン／アウトプットを往復することで、単に記録することにとどまらない調査の視点と分析方法を体得し、新しい保存と活用／再利用の建築的可能性を模索し提示することを目指す。

■佐藤 幸恵

建築物の長寿命化、高機能化技術の開発には、それらの性能を実現する建築材料が不可欠である。近年社会問題化しつつある建築物の既存ストックの増加に対し、その有効活用には経年した建築物の適切な診断と補修補強が重要である。さらに、他産業の副産物の有効活用や、建築材料のリサイクルなどの環境に対する配慮の要求が高まっている。このように、建築材料に対する要求の多様化に対応すべく、特にセメント・コンクリート系建築材料の高性能・高機能化技術の開発と環境配慮型材料の開発とその有効活用方法について研究を行う。

■焦 瑜

鋼構造の設計を的確に行うためには、部材や接合部の力学的性能を正しく把握することが不可欠である。特に大地震時に損傷を受ける領域では、鋼材の力学的・延性限界を明らかにする必要がある。本研究室では、鋼材・部材・骨組の各レベルから鋼構造の耐震性能を総合的に評価している。また、損傷構造の補修・改修技術の開発や、ワイヤ・アーク積層造形法（WAAM）を活用した新たな構造部材・接合部の創成にも取り組んでいる。WAAM鋼材の特性評価を通じて、建築構造用鋼材としての信頼性を明らかにし、自動施工や省人化に資する新たな製造プロセスの確立を目指している。これらの研究を通じて、鋼構造建物の安全性と継続利用性を高め、レジリエントな社会の実現に貢献している。

■須藤 美音

室内環境工学に関わる研究として、病院・飲食店・オフィス等を対象に“知的生産性”・“健康”をキーワードに取組んでいます。例えば、某大学病院と共同研究では、離職率の高い病棟看護師が持続可能な働き方ができるような、疲労軽減・生産性向上を目的とした病棟環境構築のためのフィールド調査を行っています。

また、FM（ファシリティマネジメント）分野として“建物・設備の維持管理”・“公共施設の適正配置”をキーワードとした研究にも取り組んでいます。維持管理BIMを現場に導入することによる費用やその効果を検証しています。

■手塚 貴晴

建築の境界が持つ意味について文化的或いは環境的観点から考察を行う。建築の内外の境界が曖昧な日本では、空間は囲い込むものではなく「仕切る」あるいは「しつらえる」という概念で捉えられてきた。その結果どのような都市環境が生じるのかという問いが研究室の主要なテーマとなる。検証には自然の概念から比較文化に至るまで広範な手法が使われる。日本建築空間を起点としているが、最終的には国際的な視点を持った結論を導き出す事を目標としている。

■中川 純

現代は転換期であり、最大級の政治的正しさに後押しされるかたちで建築の環境設計が要請されている。建築の可能性と表現の自由を担保するために、建築はどのような空間や機能を持ちうるのか、技術と美学の両面から批評的に研究する必要がある。調査や実験を通して現代における課題を認識した上で、地域・社会との繋がりや自然環境と共生する建築を自然科学・社会科学の知見によって明らかにし、技術と美学を媒介するものについて建築計画学の観点から多角的に検証する。

■能作 淳平

大量のストックを抱える現代都市において、単に建築をつくるだけでなく、つくった後にどう使われて変化していくかという時間軸での思考が重要になる。建築の創作としても、また実際の社会実践としても、この時間について考えるプロセス論を構築していく必要があると考える。その理論化と並行して建築の改修や空き家活用などのプロジェクトの実践を通し、その場にあるものの観察から限られた資源を最大限に活用する新たな建築的手法の探究する。

■原田 公明

本研究室の指導教員は、実務経験40年の現役の構造家であり、超高層・大スパン・RC造・木造と様々な構造形式の設計を行ってきた。この間に阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震他、震度6強以上の大地震等があり、自然の脅威と現実に向き合いながら、設計から完成までの建築作りに携わってきた。安心安全な構造の実現に加え、快適な空間づくりや形態を追求した構造デザインも数多く手掛けてきた。その経験を生かし「意匠」「構造」「環境」との協働も視野に入れた、社会貢献できる建築構造の教育や研究を行う。

【建築都市デザイン専攻 都市工学領域】

■白旗 弘実

構造物の経年劣化が問題となっている。鋼あるいはコンクリート構造物の非破壊検査、診断、常時監視に関する研究を行っている。具体的には、超音波探傷法による溶接部の品質管理、疲労き裂の検出、赤外線あるいは衝撃弾性波法によるコンクリート不連続部の検出、効果的な防食のための橋梁の降雨時の排水方法などについて、解析的、実験的に検討をしている。

■秋山 祐樹

安心安全な社会の実現には、実空間の実態と変化を把握する技術が不可欠である。そこで本研究室では「空間情報科学」を専門とし、様々な統計や地理空間情報（マイクロジオデータ）、ビッグデータをGIS（地理情報システム）や統計解析、人工知能（AI）などを活用してモニタリングし、都市、建物、車、人などの活動を把握・分析することで、持続可能で快適な社会の実現とその支援を目指すことを目的とする。新しい研究にチャレンジしたいやる気のある方、産官学連携や海外展開に興味がある方、社会人・留学生の方など、世界を変えていきたいという高い志を持つ学生を歓迎する。

■伊藤 和也

地盤環境に関する課題に加えて地震・豪雨等の自然災害に対する防災上の課題について幅広い視点での検討を実施している。具体的には、要素試験、模型実験（遠心模型実験含む）、数値解析による①構造物基礎の安定問題や地震時挙動の解明、②豪雨・地震や切土中の斜面の安定問題、③トンネル掘削時の地盤安定問題、④自然災害に対するハード・ソフト対策の評価手法の開発、⑤建設工事の安全問題が挙げられる。

■稲垣 具志

誰もが住みやすい都市づくりに向けて、「交通」を軸とした政策の提言を目指し活動を展開している。道路の交通安全対策、交通安全教育・啓発、都市交通のユニバーサルデザイン、地域公共交通の計画・評価、自転車の利活用といった、市民の日常生活と密接にかかわる交通を対象としている。世田谷区をはじめとしたフィールドで、行政（政府・自治体・警察等）、交通事業者、子ども、高齢者、障害者、小中高校、町会・自治会、商業者など、都市生活における様々なステークホルダーと向き合い、人を中心とした実践的なアプローチを心掛けている。

■小野村 史穂

人々が集中する都市は、温暖化や集中豪雨に対して弱く、毎年深刻な熱中症や水害が発生している。本研究室では、そうした都市における気象場をモニタリングし、実態を解明、被害を軽減することを目的とし、IoT デバイスを用いた新しいセンシング技術の開発や観測、災害現場での調査や室内・屋外実験を実施している。他分野の研究者や行政とも連携し、水文気象学的観点から、快適で安全な都市の発展に貢献していく。

■栗原 哲彦

コンクリート工学に関連した課題について主に実験により研究に取り組んでいる。最近では、①酸溶解によるリサイクル技術の開発、②振動計による内部鉄筋の腐食判定法の開発、③硬質ウレタンによるRCはりの補強効果の確認、④新たな粗面処理による付着特性の評価、⑤コンクリート打込み作業者の行動視覚化、を中心に企業や他研究者との共同研究も含めて、精力的に取り組んでいる。

■五艘 隆志

社会基盤整備プロジェクトのマネジメントはヒト（ステークホルダー、労働力、組織など）・モノ（資機材）・カネ（公会計、出融資など）・情報といったリソースの最適配分がその本質となる。本学科目ではこの配分を現実に動かす執行形態（設計施工分離、設計施工一括、PFI/PPP等）、入札・契約・監理・検査・検収・支払システム、コスト/時間/品質管理システムに関する研究を行っている。基礎自治体災害マネジメントシステム構築、技術者の生きがい、ICTを活用した生産性管理などは具体的フィールドを持つ産官との共同研究として実施している。

■斎藤 隆泰

社会基盤構造物の維持管理に資する研究を、実験とシミュレーションの両面から行っている。対象はコンクリートから炭素繊維強化プラスチックに至るまで多岐に渡る。実験では、超音波やレーザーを用いて構造物内部の健全性を評価する非破壊評価に関する研究を行っている。シミュレーションでは、連続体力学を基礎に構造・材料に対する新しい動的解析手法の開発に関する研究や、開発手法の非破壊評価等への応用研究に取り組んでいる。機械学習やスーパーコンピュータ、量子コンピュータも活用する。応用力学や構造工学、分野横断研究に興味のある高い志を持つ学生を歓迎する。

■珠玖 隆行

安全安心な社会の実現に向けた合理的な意思決定に貢献するため、空間スケールが数mmのミクロな問題から～数十kmのマクロな問題までを対象に、物理シミュレーションやベイズの定理に基づいた機械学習の基礎・応用研究に取り組んでいる。とくに、現実の複雑な問題を人間が解釈し数理的に解けるようにするための「モデリング」に着目した教育・研究活動を展開している。産官学連携や国際共同研究も積極的に実施しており、自分の頭で考えて手を動かすことが好きな学生、国際的な活動にも積極的に参加していきたいという学生を歓迎する。

■末政 直晃

本学科目では、地震時に発生する液状化に関する研究を行っている。まず液状化発生の有無を判定するため、地盤調査法や土質サンプリング方法を開発している。次いで、液状化対策工法として、薬液注入工法の高性能化やマイクロバブル・微粒子を地盤に注入する新しい工法の開発を行っている。他に、滑走路や老朽擁壁の維持管理を目的とした研究や洋上風力・宇宙開発に関連した基礎研究も実施している。

■関屋 英彦

橋梁やトンネル等の社会インフラの老朽化問題を解決するため、社会インフラの維持管理の高度化に関する研究に取り組んでいる。具体的には、センサー技術・IoT技術・AI技術・再生可能エネルギー技術等を活用したインフラモニタリングシステムの開発を行っている。開発を進めているシステムによって、インフラの健全度評価・損傷の発生検知・震災後の橋梁の状態の瞬時判定等が可能となる。

■西田 悠太

世界各地の大都市の多くでは低平地に人や資産が集中しており、気候変動に伴う海面上昇や波浪の強大化、海岸線の後退などによるリスクが指摘されている。本研究室では、沿岸域が抱えるリスクをその不確実性を含めて評価し、ステークホルダーに適切な情報を提供することを目的とし、現地調査、水理実験と数値シミュレーションを組み合わせた研究を実施している。センシング技術の向上に伴い海底地形などの計測データの持つ情報量は飛躍的に増大していることから、機械学習などを用いたデータ活用にも取り組み、海岸工学の研究者として Evidence-based な社会の実現に貢献していく。

5. 履修モデル(博士前期課程)

履修モデル：建築計画・設計 建築計画・建築史、建築設計

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
技術英語演習Ⅰ	建築計画特論	建築設計特論Ⅱ	ユニバーサルデザイン特論
英語プレゼンテーション技法	都市デザイン特論	日本建築構法史特論	
研究の作法	建築生産特論	特別講義（建築都市デザインⅠ）	
インターンシップ		設計インターンシップⅠ	
		設計インターンシップⅡ	
		設計インターンシップⅢ	

履修モデル：建築構造 建築構造学

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
技術英語演習Ⅰ	建築生産特論	建築振動工学特論	構造力学特論
技術英語演習Ⅱ		建築構造計画特論	地盤工学特論
偏微分方程式特論		建築構法特論	
英語プレゼンテーション技法		建築材料特論	
研究の作法		建築構造解析特論	
インターンシップ			

履修モデル：建築生産・材料 建築生産・材料

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
技術英語演習Ⅰ	建築生産特論	建築構法特論	コンクリート工学特論
技術英語演習Ⅱ		建築材料特論	構造力学特論
英語プレゼンテーション技法		建築構造計画特論	
研究の作法			
インターンシップ			

履修モデル：建築環境設備 建築環境設備学

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
技術英語演習Ⅰ	建築生産特論	温熱環境学特論	水理学特論
技術英語演習Ⅱ		空気環境学特論	水文気象学特論
英語プレゼンテーション技法		光環境学特論	環境建築学
研究の作法		建築設備計画特論	
エネルギー環境工学特論			
インターンシップ			

履修モデル：構造安全・災害軽減

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
偏微分方程式特論	構造力学特論	コンクリート工学特論	地盤動力学特論
応用数値解析特論	応用数理統計特論	構造信頼性特論	地盤工学特論
技術英語演習Ⅰ	総合演習ゼミ		水理学特論
技術英語演習Ⅱ			水文気象学特論
英語プレゼンテーション技法			海岸工学特論
研究の作法			ユニバーサルデザイン特論
インターンシップ			空間情報科学特論
			建築材料特論
			建築構造解析特論

履修モデル：地盤環境

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
偏微分方程式特論	地盤動力学特論	コンクリート工学特論	構造力学特論
応用数値解析特論	地盤工学特論		水理学特論
技術英語演習Ⅰ	総合演習ゼミ		構造信頼性特論
技術英語演習Ⅱ			水文気象学特論
英語プレゼンテーション技法			海岸工学特論
研究の作法			ユニバーサルデザイン特論
インターンシップ			空間情報科学特論
			建築振動工学特論
			建築材料特論

履修モデル：水圏環境

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
応用数値解析特論	水理学特論	水文気象学特論	地盤動力学特論
技術英語演習Ⅰ	総合演習ゼミ	海岸工学特論	地盤工学特論
技術英語演習Ⅱ			構造力学特論
英語プレゼンテーション技法			コンクリート工学特論
研究の作法			構造信頼性特論
インターンシップ			ユニバーサルデザイン特論
			空間情報科学特論
			温熱環境学特論
			空気環境学特論
			光環境学特論

履修モデル：計画マネジメント

総合基礎科目・総合教養科目	専門基礎科目	専門科目	関連科目
応用数値解析特論	総合演習ゼミ	ユニバーサルデザイン特論	地盤動力学特論
技術英語演習Ⅰ		空間情報科学特論	地盤工学特論
英語プレゼンテーション技法			水理学特論
研究の作法			コンクリート工学特論
インターンシップ			構造信頼性特論
			水文気象学特論
		海岸工学特論	
		建築生産特論	

履修モデル：社会基盤マネジメント

専門基礎科目	専門科目
応用数理統計特論	国際建設契約管理特論
建設プロジェクトマネジメント特論	社会基盤情報マネジメント特論
国際建設マネジメント特論	リスクマネジメント特論
建設プロジェクトマネジメントシステム特論	ITプロジェクトマネジメント特論
	PPP/PFI特論
	国際コンサルティングエンジニアリング特論
	契約責任・建設紛争の構造特論
	BIMを基盤とした建設マネジメント特論
	特別講義（社会基盤マネジメントⅠ）
	特別講義（社会基盤マネジメントⅡ）
	特別講義（社会基盤マネジメントⅢ）